2021 年 5 月 14 日

2021 年 12 月期 第 1 四半期決算 カンファレンスコール 説明要旨

皆さまこんにちは。日本ペイントホールディングス 共同社長の若月です。

本日はお忙しい中、ご参集いただき、誠にありがとうございます。これより、2021 年 12 月期第 1 四半期決算の概要をご説明いたします。

なお、本日もウェブ上で音声ライブ配信を実施しています。また、日英両言語にて同時通訳を入れてのカンファレンスとしています。

また、後ほども触れますが、決算については体制変更後も引き続き私がご説明申し上げますので、改めまして、よろしくお願いいたします。

まずは 2021 年 12 月期第 1 四半期のサマリーです。

短信ベース、実質ベースともに大幅な増収増益を達成しています。短信と実質の差異については、主に 3 点あります。1 点目は、新規連結影響、すなわちインドネシア・インド事業の新規連結開始による影響であり、短信ベースには入りますが、実質ベースには入っていません。2 点目は、為替影響であり、全体に期初想定と比べて円安に振れていますので、短信ベースではプラスの影響となります。ただし、トルコはリラ安ですので、短信ベースではマイナス影響となります。そして、3 点目はアジア合弁事業 100%化に伴う M&A 費用であり、短信ベースでは費用計上されていますが、実質ベースでは入っていません。

中国は昨年最も需要の多い 3 月にかけて非常に強くコロナの影響を受けましたので、今期の増収はある意味予想されていましたが、それでも DIY、Project ともにシェアを拡大したと推定され、大変好調でした。

日本は引き続きコロナの影響があり、前年同期と比して横ばい。日本・中国以外の地域は総じて好調でした。いずれにしろ、今期は前期と比較する場合、前期がコロナ影響により特異な 1 年だったことにご留意いただく必要があると考えています。

新規連結のインドネシア事業は、参考値ながらも増収増益と、特に非常に高い利益率を達成しています。

全般に原材料価格は上昇傾向にあり、売上、塗料需要の面では比較的好調が継続するものの、第 2 四半期以降は予断を許さないと見通しています。全体としては値上げやコスト抑制などにより、期初予想は必達として、いかに上積みできるかを注視しておりまして、その辺りは原材料価格の動向がもう少し落ち着けば、第 2 四半期以降に改めてアップデートできればと考えています。

なお、日本セグメントの業績明確化のために、本部費用を切り出して調整項目としています。この費用はホールディングスで発生している未配分の費用であり、新中期経営計画でお知らせした本部費用と同じイメージです。

先般ご案内の通り、4 月 28 日に代表執行役の異動、共同社長体制を発表しています。

田中前社長の退任理由については記者会見の通りであり、私がコメントするのは必ずしも適切ではないと思います。ただし、明確にしておきたいのは、異例なタイミングであることは承知の上で、経営上の体力の問題に直面し、最終的に会社の持続的な発展を考えての判断であり、私、そしてウィー・シューキムの両名は新中期経営計画に表象される成長戦略を着実に実行するだけでなく、むしろ凌駕するつもりで着任しました。後任としてのプレッシャーをバネに、しっかりと結果を出していきたいと思いますので、改めてよろしくお願いいたします。

共同社長体制についても上場会社では珍しいことは承知の上で、指名委員会として今後の当社の発展にベストな布陣であると判断したとお考えください。私としては、日本ペイントグループ自体がそもそもユニークであり、強力なグループであることから、共同社長というユニークな体制も我々２人なら十分に機能し得ると確信しています。この辺りもプレッシャーはもちろんありますが、結果で勝負していきたいと思います。

なお、冒頭で申し上げた通り、また記者会見でも指名委員会委員長の原壽から説明がありました通り、資本市場との対話は私の経験が最も活かせる領域ですので、引き続き共同社長体制では私が担当いたします。新たな CFO を設置するわけではなく、これまでの CFO 業務は継続した上で、経営管理全般を所管し、そして経営全体

の執行に対する共同責任を負うことになります。また、ウィー・シューキムは 12 年に亘って NIPSEA を CEO として率いてきた実績や塗料実務への精通を活かし、オペレーション全般を所管します。ただし、同じく執行については私と共同の責任を負うことになります。

最後に、ゴー・ハップジン会長からは、これまでと変わらず大所高所からのアドバイスをいただきます。ただし、支配株主の代表という立場でもあるため、取締役会議長は筆頭独立社外取締役の中村昌義が担うことになります。

以上、新しい体制を簡単にご説明しましたが、皆さま、改めまして、よろしくお願いいたします。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-2. 主要地域の市況・業況のサマリー（1）

主要地域の市況・業況

		1Q実績
日本	汎用	コロナ再拡大により、塗装工事の遅延や新規発注の低迷が継続し、減収
	工業用	コロナ影響からの回復を見込むも、コイル事業などの各分野で市況低迷が継続し、前期並み
NIPSEA 中国	汎用（DIY）	旧正月の影響は想定よりも軽微であり、大都市圏を中心に販売が好調に推移し、+57%増収。原材料費用は若干上昇するも、値上げにより影響を軽減
	汎用（PRJ）	公共施設や保障性住宅向けの旺盛な塗料需要を背景に市場成長が継続し、+110%増収
アジア（NIPSEA 中国以外）		全体では+27%増収。マレーシアGr.・シンガポールGr.はコロナ反動および経済再開に伴い増収。タイGr.も自動車市場が緩やかに回復。ただし、自動車用の半導体不足等に注視し、市況回復に対し一定の影響があると想定
インドネシア		コロナ影響からの回復に加え、CCM設置数の増加等が貢献し、+14%増収（ご参考：現地通貨ベース概算値）

NIPPON PAINT GROUP 5

P5 以降は各地域の市況、業況となります。

NIPSEA 中国の DIY、Project は先ほど申し上げた通り大変好調ですが、中国以外のアジアでも前期のコロナからの反動もあって、大幅に回復しています。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-2. 主要地域の市況・業況のサマリー（2）

主要地域の市況・業況

		1Q実績
オセアニア		山火事や洪水が発生した前期に比べ、今期はDIY需要が継続し、増収
米州（Dunn-Edwards）		外壁塗装作業の可能な好天に恵まれたことや底堅い住宅需要に加え、コロナ影響による制限緩和も寄与し、増収
欧州（Betek Boya）		積極的な販促活動による販売ディーラーの増加や、同ディーラーの製品取り扱いシェアの向上により、高成長であった前期を更に上回る+78%の増収
自動車用	日本	部品や半導体不足による自動車生産台数の伸び悩みを受け、前期並み
	NIPSEA中国	前期からの市況回復が継続（自動車生産台数：前年同期比+83%）し、増収
	米州・欧州	欧米は、半導体不足や北米寒波の影響による生産調整が継続するも、販売は堅調に推移し、増収
調整		1Q（短信ベース）は、前期20億円に対し、今期は55億円を計上。アジア事業との一体化に絡んだ印紙税等26億円を含む

NIPPON PAINT GROUP 6

オセアニアの DuluxGroup 社では、前年第 1 四半期において、特に 1-2 月に山火事や洪水が発生し、厳しい状況であったのに対し、3 月の途中からは巣ごもり需要によりホームセンターなどでの売上が大幅に増加するなど、非常に振れ幅が大きく、純粋な前年同期比較は少し難しい部分があります。前年第 2 四半期も巣ごもり需要の効果が続いたこともあり、今年の第 2 四半期以降に前年同期比で同じような数字が出せるわけではないと考えています。それでも、2 月に今期の見通しとして提示した前年比 0-5%の増収（現地通貨ベース）は十分に達成できると考えています。

その他地域の Betek Boya 社は現地通貨ベースでは好調、ただし為替影響により短信ベースではそこまでの成長にはなっていません。

自動車用については半導体不足の影響がある一方、販売需要は特に前年同期比では好調でしたが、生産台数の多寡により地域の伸びにはバラつきがあります。

最後に調整項目ですが、今期 55 億円のうち 26 億円が印紙税などの一過性の M&A 費用となります。実質ベースでは、その他連結調整と併せて 33 億円であり、実質は 13 億円の費用増となります。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-2. 主要地域の市況・業況のサマリー（3）

原材料市況

・世界的な景気回復や生産拡大による需要増に加え、北米の大寒波影響等により、急激に需給バランスが悪化し、基礎石化製品の市場価格は高騰
・市場価格の上昇が購入価格に波及するまでのタイムラグには地域差があり、1Q業績への影響は中国や米州などの一部地域にとどまる
・2Qは全地域で上昇基調と想定

原材料市況への対応策

・原材料価格に応じ、グローバルで適宜値上げを開始
・上記のとおり、複数の原材料で供給が不安定な状況に対し、海外を含むグループ各社間で、原材料の割り振りや融通を行い、必要数量の確保を実施
・現時点では、製品供給への直接的な影響は回避できている

NIPPON PAINT GROUP 7

原材料市況についても、簡単にご説明いたします。

基本的には資料に記載の通りですが、需給バランスの悪化が生じており、その影響が PL に反映されるタイミングには地域差があります。第 1 四半期では前期からの在庫もあり中国など一部地域にて業績に影響が出ており、第 2 四半期はもう少し厳しいことになると想定しています。

対応策としての値上げやコスト低減などはもとより、グローバルでの調達力を活かして各地への最適配分ができることが、このような局面ではある意味、競合他社に対しても強みになると考えています。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-3. 第4四半期決算発表からの主なトピックス①

GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「優れた統合報告書」と「改善度の高い統合報告書」に選出（2月25日発表）

- 「改善度の高い統合報告書」は延べ94社が選定されたが、そのうち最も多くの運用機関（6機関）から高い評価を得た企業として、当社が選出
- 「価値創造プロセスが迫力をもって共有されている」「マテリアリティの特定プロセスなどが詳細に記載され、関連するSDGsや説明の追加により分かりやすくなっている」といった点が評価
- 今後も統合報告書のさらなる改善・拡充を図り、積極的な対話に努める

統合報告書2020

価値創造モデル

NIPPON PAINT GROUP 8

P8 以降は、最近の主なトピックスになります。

各詳細は割愛しますが、前期に非常に力を入れて作成しました統合報告書について、投資家の皆さまから高い評価をいただいたことは非常に喜ばしく思っています。引き続き投資家の皆さまのフィードバックを元にさらなる改善・拡充を図り、積極的な対話に努めていきます。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-3. 第4四半期決算発表からの主なトピックス②

MSCI日本株女性活躍指数（WIN）の構成銘柄に選定（3月3日発表）

- 2020年以降、当社が取締役、執行役などの経営幹部に積極的に女性を採用している点が評価され、2020年6月に続き2020年12月に2回目の選定
- グローバルの全従業員に占める女性従業員の割合は24.0%、幹部職に占める女性の割合は24.5%であり、今後さらなる女性活躍の推進を目指す

News Release

2021年3月3日
日本ペイントホールディングス株式会社
（関合せ先）広報部長　山本由紀子
TEL：050-3131-7416

ESG経営に向けて日本ペイントホールディングスがMSCI日本株女性活躍指数（WIN）の構成銘柄に選定

日本ペイントホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、取締役会長代表執行役社長兼CEO：田中正明、以下：当社）は、2020年12月に性別の多様性を推進する企業を対象としたMSCI日本株女性活躍指数（WIN）※1の構成銘柄に選定されましたのでお知らせいたします。

MSCI日本株女性活躍指数（WIN）とは、米国の大手金融サービス企業であるMSCI社が開発したESG指数の一つで、時価総額上位700銘柄（MSCIジャパンIMIトップ700指数）の中から、MSCI社が独自の評価基準に基づき、業種内で性別多様性に優れた日本企業を構成銘柄に選定しています。また、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を行う際のベンチマークとして、この指数が採用されています。当社は2020年6月に初めて構成銘柄に選定され、今回は2回目の選定となります。

当社はESG経営を推進するにあたって、多様な価値観を積極的に受け入れ、事業にかかわる人々を尊重する「ダイバーシティ&インクルージョン」を1つの重要課題（マテリアリティ）として掲げております。性別、出身国などの違いを生かす人材活用に取り組んでおり、ダイバーシティの推進に力を入れております。

国内の女性活躍推進に向けた取り組みについては、2016年以降、時間単位で取得できる有給休暇制度やテレワーク制度の導入や、育児休職期間を3年に延長するなど、女性社員が働きやすい環境の整備に努めております。その他、女性幹部職の育成にも力を入れており、幹部職を創出するための女性リーダー研修を2015年から開始し、累計の参加人数が約70名に達しています。

2021年3月3日 リリース記事

関連指標（グローバル）	
全従業員に占める女性従業員の割合	24.0%
幹部職に占める女性の割合	24.5%

※詳細:https://www.nipponpaint-holdings.com/sustainability/library/esg_info/

NIPPON PAINT GROUP　9

P9 では、当社グループのダイバーシティ推進が認知されたものと理解しています。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-3. 第4四半期決算発表からの主なトピックス③

中国建材検査認証グループ（CTC）による日本ペイントチャイナ初の中国グリーン製品認証を取得（3月5日発表）

- 内装用塗料を含む12製品がCTCの中国グリーン製品認証を取得
- 日本ペイントチャイナではグリーン製品の開発のための技術革新を推進。塗料業界のリーディングカンパニーとして今後もグリーン製品開発を加速

2021年度中国ブランド指数（C-BPI）でゴールドブランドを獲得（4月20日発表）

- 203の業界、10,100超のブランドの中から、日本ペイントチャイナの壁面用塗料と木部用塗料の2ブランドが5年以上連続でゴールドブランドを獲得
- 継続的な受賞は消費者からの信頼の証であり、今後も価値を生み出すブランドとして消費者の声をもとに製品とサービスを継続的に改良

今回中国グリーン製品認証を取得した製品

グリーン製品認証証明書

今回獲得したゴールドブランド賞

NIPPON PAINT GROUP

10

P10 は、中国でのグリーン活動、そしてブランド認知について示しています。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-3. 第4四半期決算発表からの主なトピックス④

中国不動産ディベロッパーが選ぶ塗料企業 10年連続1位獲得（3月16日発表）

- 中国不動産協会主催のサミットにて「中国の不動産開発企業トップ500が選ぶ塗料ブランド」で2012年より10年連続で第1位を獲得
- 中国で最も影響力のある評価の1つであり、評価報告書は不動産業界関係者が参考にする資料となっている
- 今後も革新的な製品開発などを通じて不動産業界と協働で新たな価値を創造することで市場の発展を目指す

今回獲得した賞

幅広い製品ラインアップの一例

NIPPON PAINT GROUP 11

P11 は、中国 Project における当社グループの強みを示しています。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-3. 第4四半期決算発表からの主なトピックス⑤

マレーシアの塗料周辺製品メーカー Vital Technical社の買収（3月16日発表）

- Vital Technical社は2002年創業で、マレーシアでシーラントおよび接着剤の市場シェアNo1.の有力メーカー。東南アジアを中心に70ヵ国以上に積極展開し、2020年度売上収益は約45億円（為替レート 1MYR=26.55円）
- 2021年3月末にクロージングが完了し、初年度よりEPSに貢献
- SAF※1に精通した優秀な経営陣の獲得に加え、相互販売の拡大、Selleys※2を含めた製品ラインアップの拡充により塗料周辺事業の成長を加速させるとともに、原材料調達の連携などにより効率性の向上を目指す

調印式の様子

【Vital Technicalの概要】

会社名：	Vital Technical Sdn. Bhd.
設立：	2002年
本社：	マレーシア
工場所在地：	マレーシア ラワン、スンガイ・ブロー、セランゴール地区
事業内容：	シーラント及び接着剤の製造・販売
売上高：	約170百万MYR（2020年度）

※1 Sealants, Adhesives & Fillers（シーリング材・接着剤・フィラー剤）　※2 接着剤・密封材等の塗料周辺ブランド

NIPPON PAINT GROUP　12

P12 では、3 月に発表したマレーシアの Vital Technical 社買収に関するクロージングのご報告となります。

新中期経営計画でも触れましたが、塗料周辺事業も特に当社グループの既存ビジネス、この場合はアジアでの販路やオセアニアの DuluxGroup 社が保有しているブランド「Selleys」とのシナジーなどが見込める場合には、積極的に拡大していきたいと考えています。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

1-3. 第4四半期決算発表からの主なトピックス⑥

オーストラリア ブランド表彰にてDuluxGroupの各種ブランドが1位を獲得（4月28日発表）

- Trusted Brands 2021は、Australian Reader's Digestの主催のもと、本年で22回目の開催となるブランド表彰
- 専門調査機関でサンプリングされた消費者の投票により各カテゴリーの順位が決定
- 塗料ブランド"Dulux"、塗料周辺ブランド"Selleys"、ガーデニングブランド"Yates"が、各カテゴリーで1位を獲得

2021年4月28日 リリース記事

NIPPON PAINT GROUP 13

P13 も、改めてオセアニアでの DuluxGroup 社のブランドの強さを再認識させられる表彰となりました。

以上が概要のご説明となります。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

3-3. 地域別分析　日本

（億円）		短信ベース 2020年1Q	短信ベース 2021年1Q	短信ベース YoY（%）	実質ベース 2020年1Q	実質ベース 2021年1Q	実質ベース YoY（額）	実質ベース YoY（%）
売上収益	自動車用	103	102	-0.7%	103	102	-1	-0.7%
	汎用	103	99	-3.2%	103	99	-3	-3.2%
	工業用	91	90	-0.7%	91	90	-1	-0.7%
	ファインケミカル	20	19	-4.1%	20	19	-1	-4.1%
	その他※1	85	88	4.4%	85	88	4	4.4%
	合計	401	399	-0.4%	401	399	-2	-0.4%
営業利益		51	44	-13.7%	51	44	-7	-13.7%
営業利益率		12.7%	11.0%	-1.7pt	12.7%	11.0%	-	-1.7pt

四半期業績推移（短信ベース）

主な増減要因

■ 自動車用　：部品や半導体不足による自動車生産台数の伸び悩み（前年同期比-5%※2）を受け、前期並み
■ 汎用　：コロナ再拡大により、塗装工事の遅延や新規発注が低迷し、減収
■ 工業用　：コロナ影響からの回復を見込むも、コイル事業などの各分野で市況低迷が継続し、前期並み
□ 営業利益　：上記減収要因に加え、人件費等の販管費の増加により、減益
◇ 前四半期比：主に汎用において、天候等の季節要因（4Qは最需要期/1Qは閑散期）により、減収

※1 その他には船舶・自動車補修等の事業を含む　※2 国内自動車メーカー発表資料より当社集計
※3 本部費用の調整項目への組み換え実施後。20年4Qは監査前のプロフォーマ値

NIPPON PAINT GROUP　20

なお、P20 以降の地域別分析においては、右側に前年対比の第 4 四半期と第 1 四半期のグラフを入れています。ご案内の通り、塗料は季節要因の強い業態ですので、前四半期との比較はあまり意味をなさないのですが、皆さまからのご要望が多いことから、こうした形で表示をさせていただきました。

また、ヒートマップ含め比較的自明ですので質疑応答でご説明するとして、P35 をご覧ください。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

5-（2）-3. 財政状態計算書

（億円）

資産の部	2020年12月末	2021年3月末	増減	負債及び資本の部	2020年12月末	2021年3月末	増減
流動資産 合計	6,435	5,857	-578	負債 合計	9,156	9,494	338
現金及び現金同等物	2,321	1,216	-1,105	流動負債 合計	3,155	3,400	245
その他	4,114	4,641	528	非流動負債 合計	6,000	6,094	94
非流動資産 合計	9,719	12,763	3,044	資本 合計	6,998	9,126	2,128
のれん	4,242	6,900	2,658	親会社の所有者に帰属する持分	5,684	9,043	3,359
その他	5,477	5,863	386	資本金	789	6,714	5,926
				資本剰余金	633	-	-633
				利益剰余金	4,446	1,957	-2,490
				その他	-184	372	556
				非支配持分	1,314	83	-1,231
資産 合計	16,154	18,620	2,466	負債及び資本 合計	16,154	18,620	2,466

主な増減要因

■ 2021年1月25日にクロージングしたアジアJV100%化並びにインドネシア事業の買収では、自己資本を毀損することなく第三者割当増資にて資本増強・バランスシートを強化

✓のれん　：インドネシア事業の新規連結化に伴い増加

✓資本金　：買収に伴う第三者割当増資による増加

✓資本剰余金 利益剰余金　：第三者割当増資による資本剰余金の増加があったものの、買収に伴う追加取得持分と追加投資額との差額を資本剰余金から控除し、控除しきれなかったものを利益剰余金から控除したことで、ともに減少

✓非支配持分　：これまで当社非支配持分の大半を占めていたアジアJVの100%化に伴い、減少

NIPPON PAINT GROUP　35

P35 では、アジア合弁事業 100%化並びにインドネシア事業買収の完了などを反映したバランスシートの状況をご説明いたします。

すでに何度かご説明している通り、アジア合弁事業は基本的に連結されていましたので、100%化してもバランスシートは膨らまない一方、資本金は増加、非支配株主持分は減少、資本剰余金・利益剰余金は減少という形になります。それらをネットした結果、資本勘定は大幅に増加しています。

私からのご説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。